

# JFM だより

vol. 29

## INDEX

- 01 融資の実
- 05 がんばる公営競技
- 07 JFM Topics
- 11 地方支援ダイアリー
- 15 金融ひとくちメモ
- 17 人事交流日記&ふるさと紹介
- 19 機構からのお知らせ
- 19 私たちもJFM債買ってます!

[JFMとは、**J**apan **F**inance Organization for **M**unicipalities の略称です。]

## Feature

# 大阪府泉南郡岬町 岬町立深日保育所



金融で地方財政を支え 地域の未来を拓く

地方公共団体金融機構  
Japan Finance Organization for Municipalities

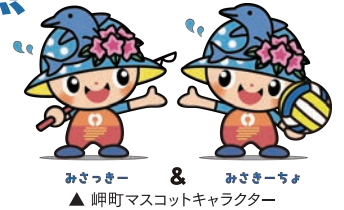


融資の実：機構の融資が、どのように活かされているかをご紹介します。

**Feature** 大阪府泉南郡岬町 岬町立<sup>ふけ</sup>深日保育所

## 町立保育所を小学校に併設 小規模な町ならではの地域力を活かした、 子どもの豊かな心を育むコミュニティの拠点

大阪府の岬町では、平成28年4月、町立深日保育所を同じく町立の小学校に併設しました。  
0歳から12歳までの子どもたちの成長をひとつの拠点で見守ることによって、  
地域の子どもの絆を強め、子育て環境の充実に取り組んでいます。



▲ 外観



▲ 正門



▲ 廊下



▲ 棚



▲ 遊戯室



▲ お手洗い

## 地域の繋がりを強みとし、保育所の統廃合ではなく 小学校への併設という道を選択

### 0歳から12歳までの子どもたちを ひとつの拠点で

岬町は、大阪府の最南端に位置するまちです。近年、まちづくりの重要な施策として子育て支援に力を注いでいます。その施策のひとつとして、平成28年に町立深日保育所を、同じく町立の深日小学校に併設し、0歳から12歳までの子どもたちの育ちを支援する「人づくり・地域づくり」の拠点として新たな一歩を踏み出しました。

「深日保育所は昭和53年に開所され、以前は同じ深日地区の別の場所にありました。施設の老朽化とともに耐震補強が必要となり、また、近隣の道路が狭く子どもたちの送り迎えが不便という保護者の方からの声もありました。そこで平成25年から保護者の方や地域の人たちと対応を検討することになったのです。」(岬町しあわせ創造部子育て支援課・寺田晃久課長)

その対応において有力な案となったの

が、近隣にある小学校との併設でした。小学校の施設はすでに耐震補強済みであり、周辺の道路も広く送り迎えにも便利です。また、地域の子どもたちの成長をひとつの拠点で見守ることができる点でも魅力的でした。しかし、車道に近いというメリットの反面、園児にとっては危険といった、デメリットの部分もありました。このようなメリット・デメリットを含め何度も話し合いが行われました。岬町では、既に別の地域で保育所と小学校の併設を実現しており、これらの経験も大きく生かされました。

こうして併設が決定し、小学校の改修工事を経て平成28年4月、深日保育所は新しいスタートを切りました。保育所は、小学校の余裕教室を改修して入居し、隣接する道路も幅員を広げるなど整備されました。併設に係る財源の一部には、地方公共団体金融機構資金(公共施設等適正管理推進事業債)を活用しています。

### 伸び伸びとした環境で 地域の子どもの絆を強める

小学校の施設を活用するにあたっては、保育園児でも使いやすい施設とするため、様々な工夫がなされています。洗い場やトイレ、棚の高さなど、保育園児の目線に合った改修が行われています。また、小学校のグラウンドの一部を芝生化し、暖かい季節には柔らかい芝生で小学生と保育園児の交流できるスペースを設けています。

「併設箇所について、施設全体を保育園児の目線で見つめ直す必要がありました。小学校としては問題のない段差や備品の角も、目線を変えると危険が潜んでいました。保護者の方々の声もいただきつつ、保育園児にとって安心・安全で使いやすい施設を目指し、現在も試行錯誤を重ねています。」(深日保育所・小路口秀子所長)

小学校との併設を活かし、保育所と小学校の合同行事も実施しています。小学校の



融資の実：機構の融資が、どのように活かされているかをご紹介します。



▲ 保育園児と小学生の交流の様子



小学校との併設を活かし、  
保育園児と小学生の交流行事を実施。  
双方にとって良好な影響を与える  
きっかけとなっている。



理科の授業に保育所の子どもたちを招き、小学生が作った工作物と一緒に遊んだり、一部の体育の授業にも参加しています。合同の避難訓練では、小学生が保育園児の手を引いて行動したそうです。

「併設の一番のメリットは、小学校の児童・先生との連携交流です。保育園児は、小学校の児童や先生と早い時期から慣れ親むことができ、小学校の児童は年少の子どもと接することで思いやりの心を育むことができ、互いに良い影響を与えていると感じています。また、小学校の先生にも、日常的に保育園の実情を知ってもらえることができ、今後は小学校と合同の運動会も開催できたらと思っています。」(小路口所長)

### 人づくり、地域づくりの拠点として

最近、小学校に入学したばかりの1年生が新しい環境に馴染めない「小1プロブレム」という問題がクローズアップされており、保育所と小学校の併設は、こうした問題の解決にも有効と考えられます。併設後、保育所を最初に巣立った子どもはすでに小学3年生に成長し、地域に根ざした環境で伸び伸びと学んでいます。

「この環境は保育所にとって大きな強み

ですが、小学校との連携は試行錯誤を重ねている段階であり、まだまだ未熟に思っています。保育園児が小学生と一緒に過ごすことは、利点が多い中、すみ分けが必要な部分もあります。こうした部分を見極めながら、小学校の先生・児童、保護者をはじめとした地域の方々と密に情報交換をしながら、コミュニティの中心的な場所として、豊かな心を持った子どもに育ててもらいたいと思っています。」(小路口所長)

「小さいうちから小学校に慣れ親しむことは、小1プロブレムの防止に繋がっていると考えています。結果は数値化しづらいものですが、効果はあると肌で感じています。人づくりは、私たち岬町の将来に向けて欠かすことのできない施策です。今後も人づくりの拠点として、さらには地域づくりの拠点として、子育て施策の充実に取り組んでいきます。」(寺田課長)

岬町は、各地区の習慣や風土といった地域性を考慮のうえ、少子化が進む中でも保育所の統廃合を行わず、小学校への併設という道を選びました。延長保育の無償化や入所要件の拡充など、子育て行政による支えもありながら、小さい町ならではの地域力を活かし、地域一丸となって町の子どもの育ちを見守っていきます。

小さい町ならではの地域力を活かし、  
地域一丸となって子ども達の育ちを見守っていきます。



▲ 岬町しあわせ創造部子育て支援課・寺田晃久課長(左)  
深日保育所・小路口秀子所長(右)



▲ 道の駅 みさき 夢灯台より望む町並み

## ご当地紹介 大阪府泉南郡岬町

### 自然に恵まれた、大阪府最南端のまち

岬町は、大阪府の最南端に位置し、東南部は和泉山脈で和歌山県と接しており全体の約80%が山地という地域です。また、西北部は大阪湾を望んで淡路島と相対し、大阪府でも珍しい自然海岸が残っています。豊かな自然に恵まれ、気候も四季を通じて温和でありながら、大阪市中心部からも電車で1時間以内と立地にも優れています。

特産品は、地元で獲れる魚を使った押し寿司です。地区ごとに鱧・穴子・メダカなど使う魚が違っており、味わいが異なるのが特徴です。

夏にはさまざまなマリンスポーツを楽しむことができ、レジャー施設も充実しています。中でも、ビーチバレー多目的競技場「潮騒ビーチバレー」には、日本唯一のビーチバレー常設スタンドを設けており、全国大会も開催されています。また、関西国際空港の整備に用いた埋立て土砂の積出残橋を活用した海釣り公園も人気のスポットとなっています。食堂・トイレのほか、雨天時に嬉しい、屋根付きの釣りスペースがあり、休日には町外から多くの家族連れが訪れます。そのほか、サイクリングも盛んであり、サイクリングフェスティバルなどのイベントも開催しています。和歌山大学観光学部と町の協働で、町内のサイクリングコースを考える取組も行いました。

また、岬町には「秀吉肉付けの像」という面白い木像があります。理智院というお寺にあり、豊臣秀吉が自らの髭を抜いて木像の頸に植えたと言えられており、観光スポットのひとつにもなっています。



▲ 理智院  
「秀吉肉付けの像」



▲ せんなん里海公園

### 大阪府泉南郡岬町

人口:15,797人(平成31年3月1日現在)

世帯数:7,620世帯(平成31年3月1日現在)

面積:49.18km<sup>2</sup>